



小池 光選

「もう百歳もう結構なありがと」亡父の言葉はわたしの宝 東京都 池野 宗子

【評】百歳で逝った父の最後のことは。「もう」の繰り返しが実に重い。そして「ありがと」がさらに重い。その言葉はわたしの生涯の宝物。忘れられぬ。

亡き夫と同じ車がギョッと止まり開いたドアから夫じゃない人 静岡市 藤田 淳美

【評】夫の愛車と同じ車がふと止まる。ふと亡き夫が降りてきそう。しかし、見も知らない人が出てきた。当たり前のことだが、その当たり前にふと立ち止まる作者。

カー押しに翁よけふはこへ行く天井食ひに梅久にゆく 小美玉市 松山 光

【評】この翁は作者自身だろう。どこに行くかと我が身に問えば、天井食いに「梅久」へ行くところ。むかしから最良のお店。

四階の窓見上げつつ散歩する九十七歳の友ひと里住む 多摩市 秋元 玉江

嫁が来たからおカンのシチューを教えてや言つてた息子いまだ独身 芦屋市 宮本 允子

何となく安心するから老人は猫の尻尾を握って眠る 狭山市 奥園 道昭

登校の列に日傘をさしてゆく女児ひとりおり秋陽きらきら 浜松市 藤田 亜耶

久しぶり傘寿の兄と打つ囲碁は勝つは嬉しく負けるも楽し 山形市 柏屋 敏秋

ノンちゃんも悟空も乗った白い雲乗れそうな気がして秋空見上げる 大東市 若槻 豊彦

辛い時「お姉ちゃん」と呼んでみるペランダに出て空に向かって 船橋市 田中 澄子



栗木 京子選

ホームではアイドルでしたとヘルパーさん「ありがとね」は母の普段着 千葉市 神子田雄治

【評】ホームで暮らしたのちに母は亡くなったのである。「アイドル」から母の人格がうかがえる。普段着をさらりとまとめるように感謝の言葉を伝えていた母。すばらしい。

利き腕じゃないほうの手の激痛で目覚めればまだ明けない時間 東京都 河野 樹美

【評】目が覚めてしまふほどの痛み。利き腕ならは一大事だが、そうでないほうの腕なのでしばらく様子をみている。「未だ明けない時間」に苦しみに耐える実感がこもる。

猫の餌、ポマードなどのメモのある若き日の旅の準備項目 福知山市 阪梨 義春

【評】持ち物の確認や留守宅の用意など。メモに記された項目から過去の生活が思い出される。「ポマード」の具体性が興味深い。

七年をかけた『内乱記』読了すラテン語講座の老年我ら 草加市 藤田 成子

来るたびに手摺りの増える参道を辿りて君に線香を焚く 松山市 宇和上 正

足腰の痛くならない内までと銀杏拾うシニアの会話 湖南市 原 茂幸

内視鏡検査の後に靴下をまじめ買いただき生きていられそうなので 東京都 青山 繁

洗濯は室内干しにすマスクして空気さえ信用できぬ世に 福山市 平井 和子

名月や今日一日を生き抜いて明日から何かが欠けて行くはず 山陽小野田市 秦 一憲

健康なだけ取り柄と笑い取るそんなあなたが実はギライだ 仙台市 菊地 康子



依 万智選

【ベビーベッド 処分】と検索窓に入れるあなたを産んだ日のような晴れ 広島市 木村 佳慧

【評】処分という事務的な語が節目を感じさせ、誕生の日の空を思い出さずきである。事実のみを記して、かえって感慨が伝わってくる。窓と晴れが縁語のように響きあうのもいい。

来てみれば案外近い君の街でもここからが遠い道のり 東京都 伊藤 直司

【評】物理的には意外と近かった。けれど問題は、心理的にどう近づくかである。現実の道のりほどは、甘くなさそう。

生きるほど閉塞室にも棚が増えもう開かない記憶が並ぶ 越谷市 秋山ともす

【評】いつでも取り出せる記憶と、心の底に沈んでしまふ記憶と。年齢を重ねると後者が増える。閉塞式図書館の比喩がユニークだ。

絵葉書は明日回収されてゆく一晩冷えた言葉とともに 大和郡山市 大津 穂波

ストリートビュー6年前のペランダに向い葵柄の母のエプロン 札幌市 ヨコヤアリ

柿の葉の朱泥のいろに染まりあてその一枚をしまし手にもつ 市原市 井原 茂明

ガリガリ君アイスを欲す病の兄永訣の朝の一節浮かぶ 青森市 横浜 暁子

AIにかけない汗をかきながらつかえつつ言うきみへの気持 富士見市 松本 尚樹

ニュータウンの建物老いて人老いて駅名だけが其のまゝに在り 香取市 嶋田 武夫

成功を祈っていつも裏返すホットケーキにあるクレーター 高島市 宮園佳代美



黒瀬 珂瀾選

運動会の演目にあるドラゲナイ検索すれど納得出来ず 京都市 根来美知代

【評】SEKAI NO OWARIOの曲「Dragon Night」の愛称が「ドラゲナイ」。それをBGMに使う競技が演技か。最近の運動会は工夫が凝らされて面白いが、昭和の人間にはついていけない。やれやれと思いつつの観戦。湯船とは温もりそして泣く場所と知りたる孫のこのごろ長湯 鴨川市 春木 敦子

【評】新社会人となったお孫さんだろうか。浴室という個室でしか苦しさや露わにできない孫と、心配する作者。しかし声はかけずにそっと見守る、祖母の優しさがあります。民のために民が作った民藝を分厚いガラス越しに見る民 大野城市 野分 のわ

【評】日常用品の美を見出すのは「民藝」も、今や博物館の展示品。美とは何なのか。五歳児をはげしく叱る六歳児 涼宮ハルヒみたに立って 東京都 石川 真琴

胆石の検査画像にわが問へば医師は静かに「無数ですよ」と 藤沢市 岡田 迪子

戦争と独裁の世に介護士はオムツ変えゆくその一つの 須崎市 野中 泰佑

月が綺麗ですねとポストするためにせつかくの月から目を離す 松原市 たりずむ

均された暮らしを走り回ったらずかに戻る真昼のルンパ 加古川市 石村 まい

わが庭に守りたきもの子ら植えてどんぐりの木と白萩の叢 会津若松市 佐藤 秀子

ひとしきり鳴きて庭木を去りゆきし百舌鳥が残してくれし静けさ 和歌山県 平松 幹弘